

KODAK Color Control Patches

© The Tiffen Company, 2000

LICENSED PRODUCT

Blue

1

2

Cyan

3

4

Green

5

6

Yellow

8

Red

9

10

Magenta

11

12

White

13

14

3/Color

15

17

Black

18

19

A

1

2

3

4

5

6

M

8

9

10

11

12

13

14

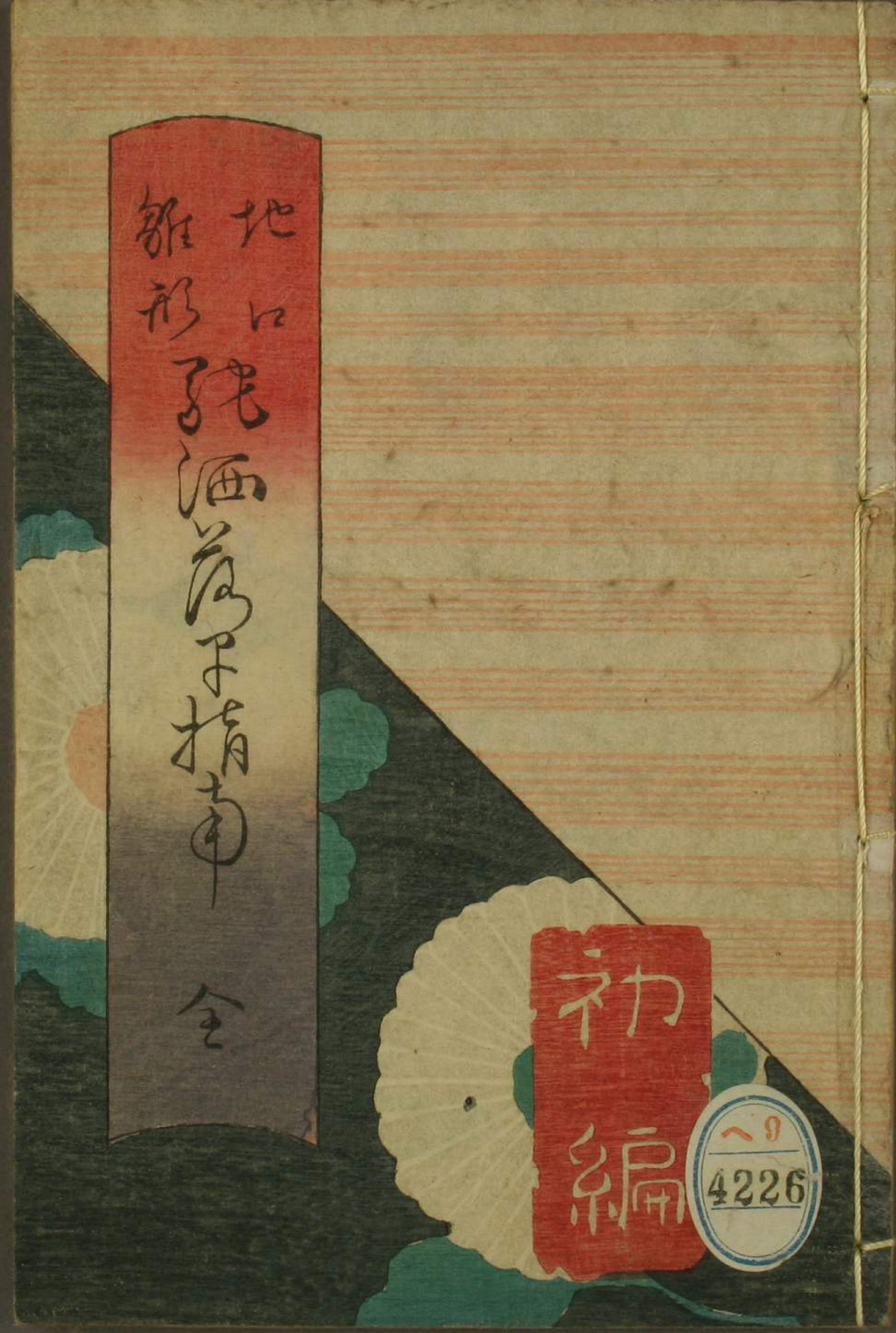
15

B

17

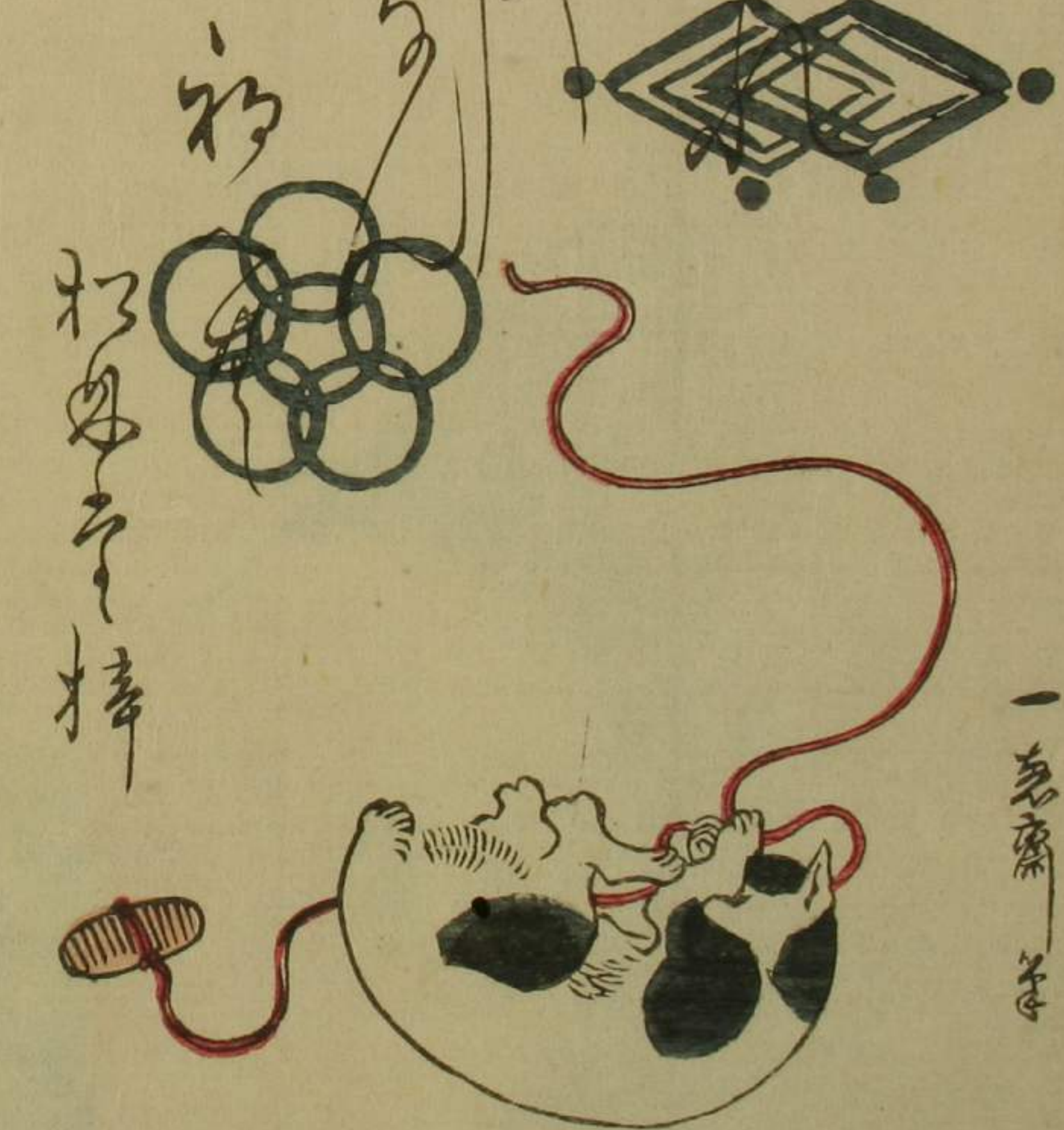
18

19



遠
2484
6
4226

だ
おん



ねむる棒

一巻齋



駝洒落早指南初編叙

虎溪小三笑あり。苦樂共に願を解腮の鎖をさるるを。滑菴昔に三笑あり。常は口より出放題は。駝洒落を吐て自己喜ひ笑ふ門の福亭小集會同盟の粹真連類ハ俱共洒落の先を。駝洒落の員は三万三千三百三十三勺小及べり。加る笑句と言ふを。あさんも惜と山王の例の櫻木よのふと。苦虫喰乃。姫はらる。姑婆に。お臍で。お茶を沸させ。扶香嘗たる。圖魔鬼面と。和ら令んと。駝洒落は岡山一惠斎が狂画を。そへ。おまを。此同屋松林堂よ。手へ。く。この種蔣三馬の口調。做し僕ハ。

文久二壬戌
季秋發市

假名垣魚目文戲述



シラカバ



シラカバ



女郎買のぬみそ汁

及具買の

床店

福

おまん飴

おまんほ

一

梅



の極書

へうえん

ぎやうさん

天

あ

の



成田山不動明王

あ

あ

三笑



助六さん小意休え

月六さんよ

お久さま

太田郎

雲井よ近きおん

おん小角

おん足袋

西竹



昨日刺さるの

舌を

刺さる

みま

有人



はつを今戸の朝煙り

唐島内田

おさ

三笑



十三をろろ毛十六

串哉むろろ

後生ら

ま真

大ともの真ころ

大土間あぢどまの

皆どろ

まぬのや
上清

駝酒子早持うまも



あゝとら瀧のみら

柳やなぎ

むきのの四口

一とまより歳

芝しばあびよころぬ

あぢらぬ

えり

きく

三笑



柳やなぎのむらむらや赤あかがる

天あま茂ぎの内うちよ

るむ麻あしののる

鮮あまるる麻あし

山やまのの小僧こぞう泣なててきき

穴あなうう糞ふんのの

とと心こころてて来きる

魯ろ文ぶん



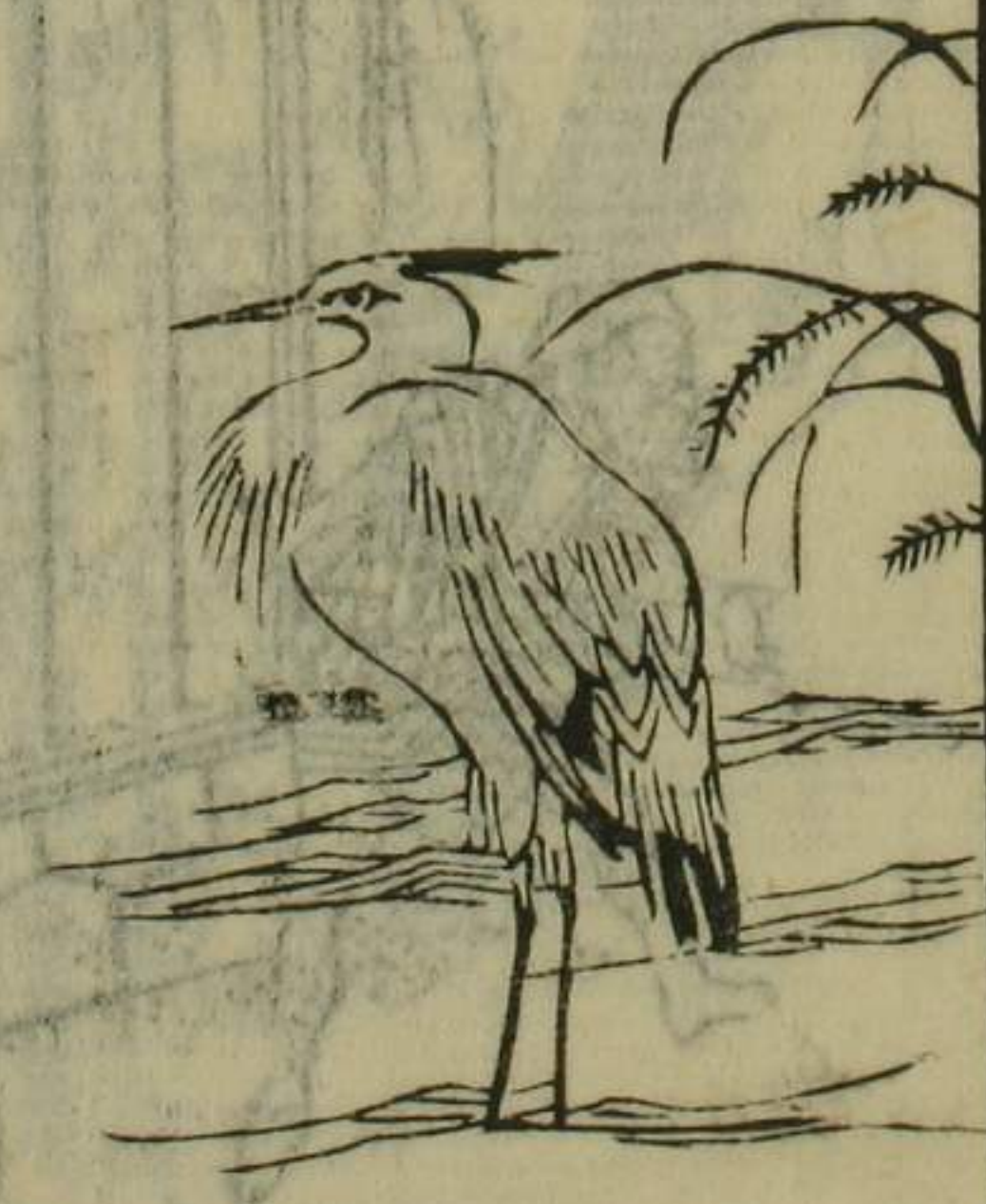
下川屋

いいききでで小こののままみ

池いけ

五ご位い塔たつた

故こ西せいる



吃くつめめ又またへへ以い

土ど留りゅう結けつ

中ちゆうののああん

大だい一いつ巻まき



遠くの親類近くの他人

切らね年礼

角の雅人

る文

わろふ此道そらうご

麻疹よ魚の及

疱瘡

二遊多田お



あふか姉さん三人どきる

虎のけき

南京ころる

魯文

あつぬひハのづらり

あつらひ

物何ころり

魚



のうまぐさんまんごむさるご

やうやくさんだんご

かきとあんぶ

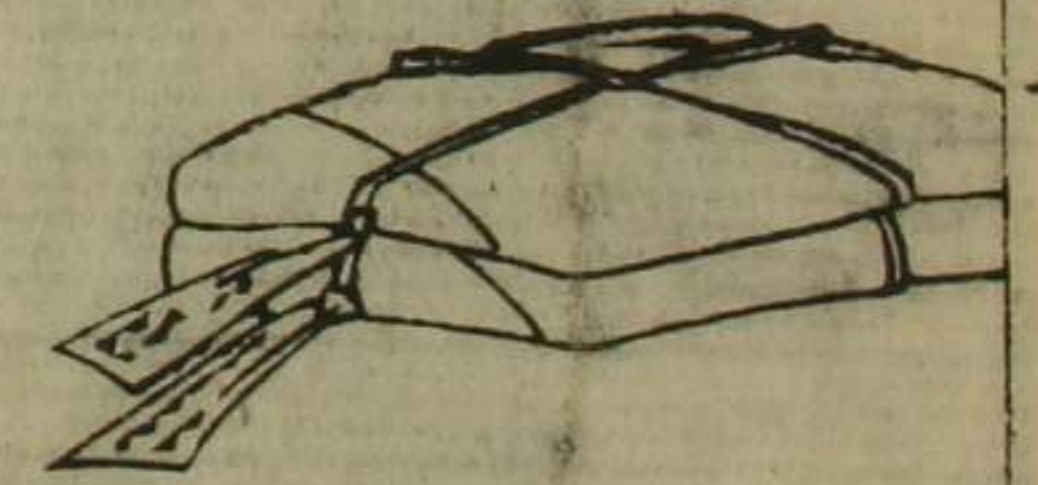
玉川 菊

抱て寐よりの沖越て

大根 練るるの

莖ころいそり

よー縁



山崎屋紫扇の三升

何々ざけや

田舎香升

ニ笑



嵯峨や御室の花盛

る殺此の

品さくせん

有人



舊鳥へ死ても穂へるび

坂へ石でも

唄ふ女を

ろ文

一日長安の花

一日中花の

おど間

お仙子



私が悪けやあなう

こまごびが

つるけや

鼻のつらう

園本橋

まの井



日向せうとくおとらう

加増せうとく

扶持こを

柳丸



水の方圓の器小巻をひ

仙のしらべんの

教りまうらひ

宿名を来

いりや密り小ひのくごぎ

いりやまうらひ

あぢくむお

柳多を来



葛西金町半田の稻荷

重以持

婚礼の若き

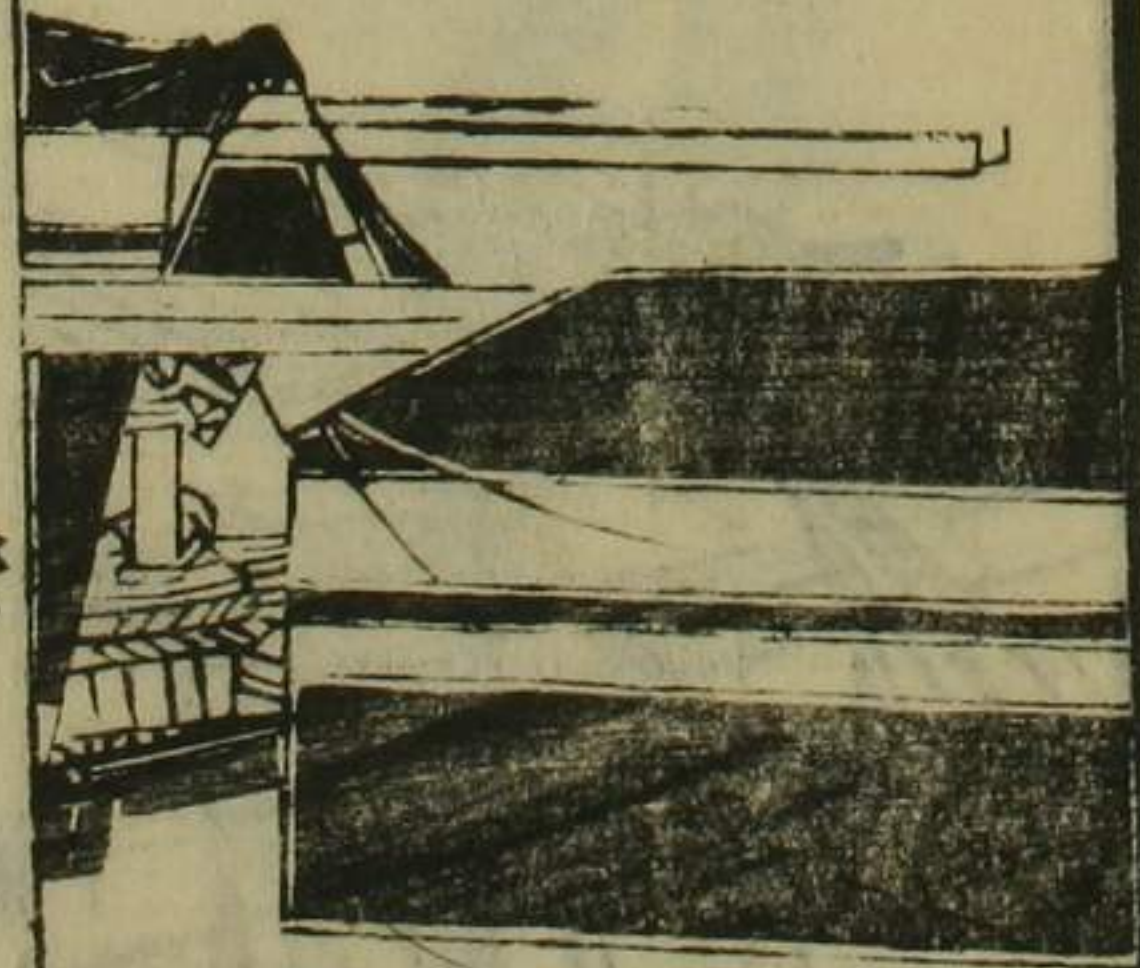
玄直

ごこの達六の掾の下

かふさなむらま

祈ん祈しと

五川秩志



しんがたす

染てらるゝ丹波屋の

こめくろくき

らんき場め

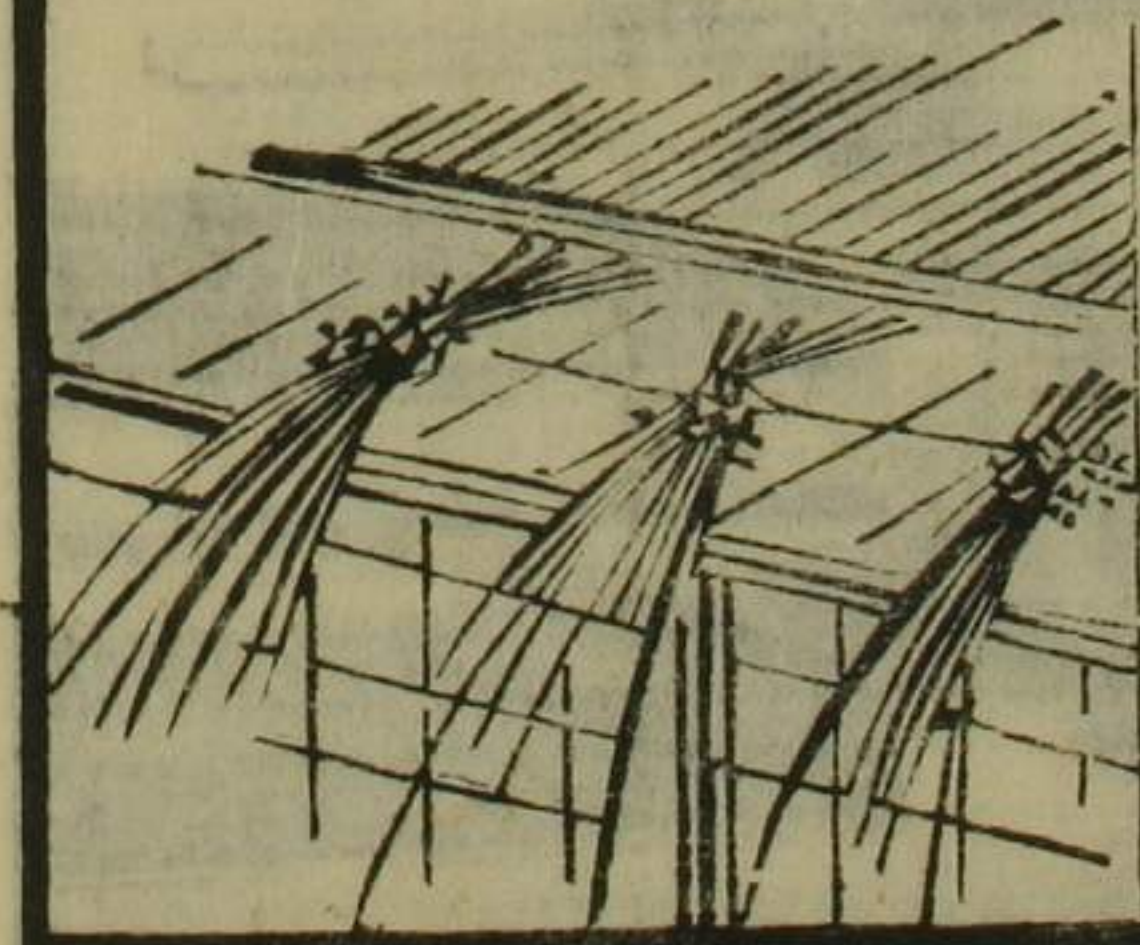
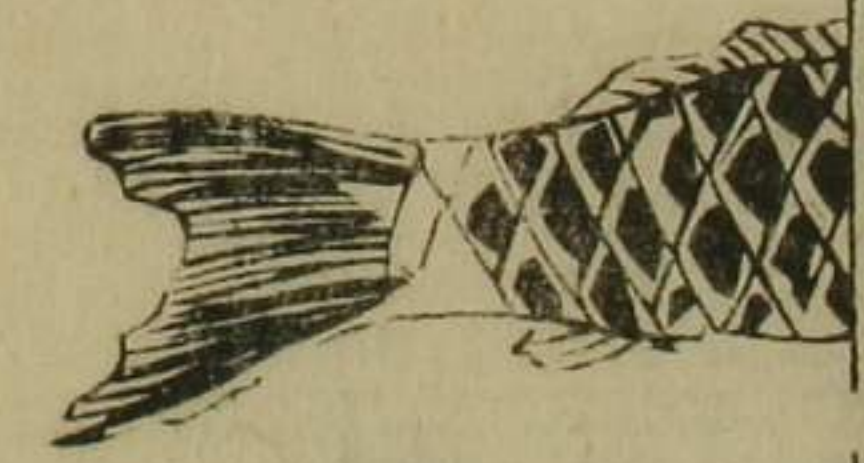
有人

戀の重荷を肩お掛

軽と蓮を

門りうき

小唄らる



賤ヶ嶽七あん鎧

ぶぶの酒

七合をり

室井琴彦

此頃舞の出演

はらけ緒布の

直河さ

二代目二豊



是の唐土の子まんぶ

あまのわどし

子 童あんたん

頂上清

當時鑊倉の代官とて

通辨 阿めりのは

さんちんとして

橋を田を



角かぶり負てはけきまのや

法おりや元ちや

名け ちんまま

美風

柳枝

江戸長寄國々せ

髪者名袖

あまのくせ

あが丁
その女



二葉抄

岸きらら波なみのなみの

籠かご子こらら物ものの

美うす日が野の花はな

ようて びて

猫ねこの目めくらくら 合あ拳こぶし初はつ元げん

下ひ戸この

つぼくら

えん松林堂



高たか天あま原はら小こ神かみののま

さくらのののま

燿あきののま

一枚多芽信



跡あとのの先さき小こ成なりて算そろととま

乃なは練ねん鼓こ

先さきののま

後悔こうかいののま



桃栗三年うら八福ん

清原山王

出八本

芳一九

お山風を何じとらん

お拾を

味とらん

二巻

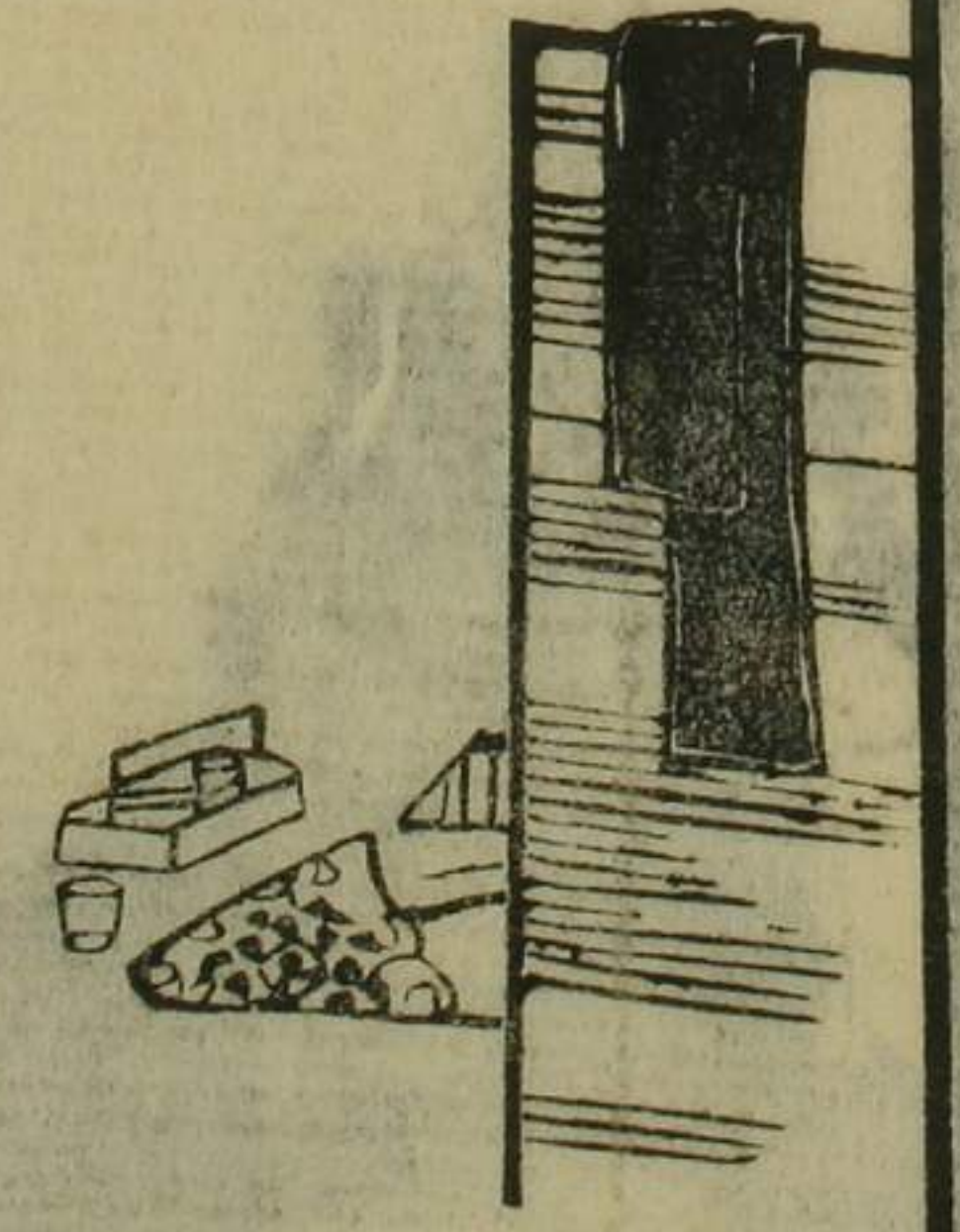


よん初夢を三ツぶとん

名田女を

肉ぶとん

ち一券



二人一つる蚊屋の紐

ふろりーを穿る

紗綾の披風

存人



何事もあはれ無理の事

針を^{あま}按^まず
味^{あじ}嚼^くむを

梁山東玉

本家烏丸びとやうと

槓^{かん}あか^かを^ごき
刺^さを^さか^ささ

清元 延壽



内を志のんを^うく^と

潮^{うしほ}で吞^のむ
揚^あ枝^えを^と

因幡

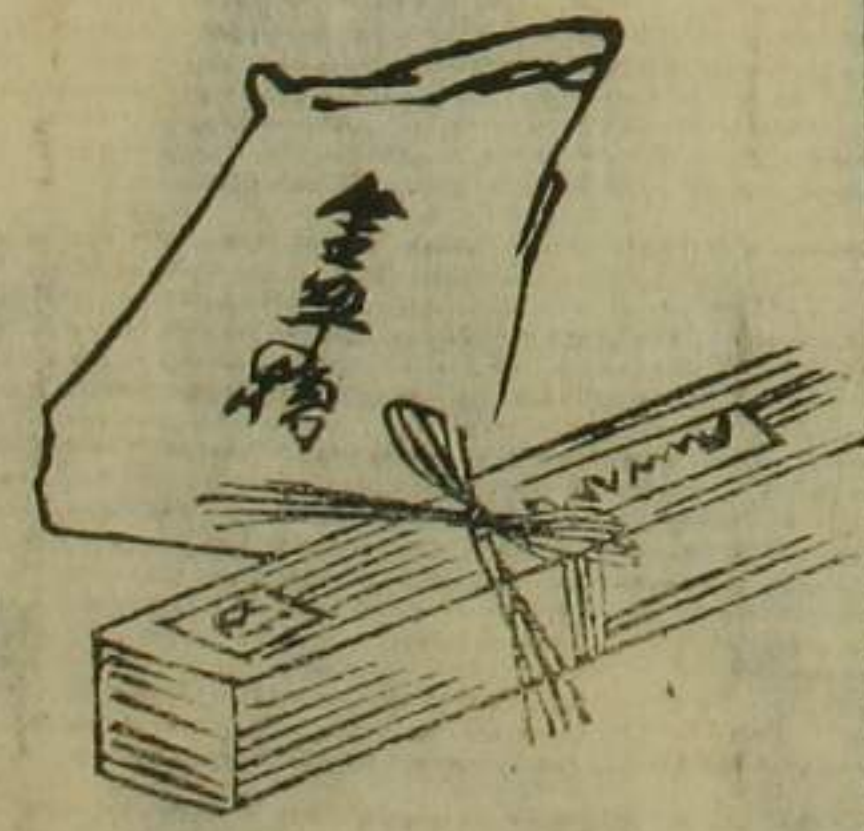


糞^{くそ}町^{まち}ふ村^{むら}井^い長^{なが}いん

氷^{こおり}掛^かり

井^い心^{こころ}を^うく^と

三笑



こゝろをわすれ

ちりつゝは法をふとある

義理つゆり

危きなる

玄魚

妹脊山のよき

いふをいふ

ふとある

ちり



十五

太々神楽門礼

代り

木戸

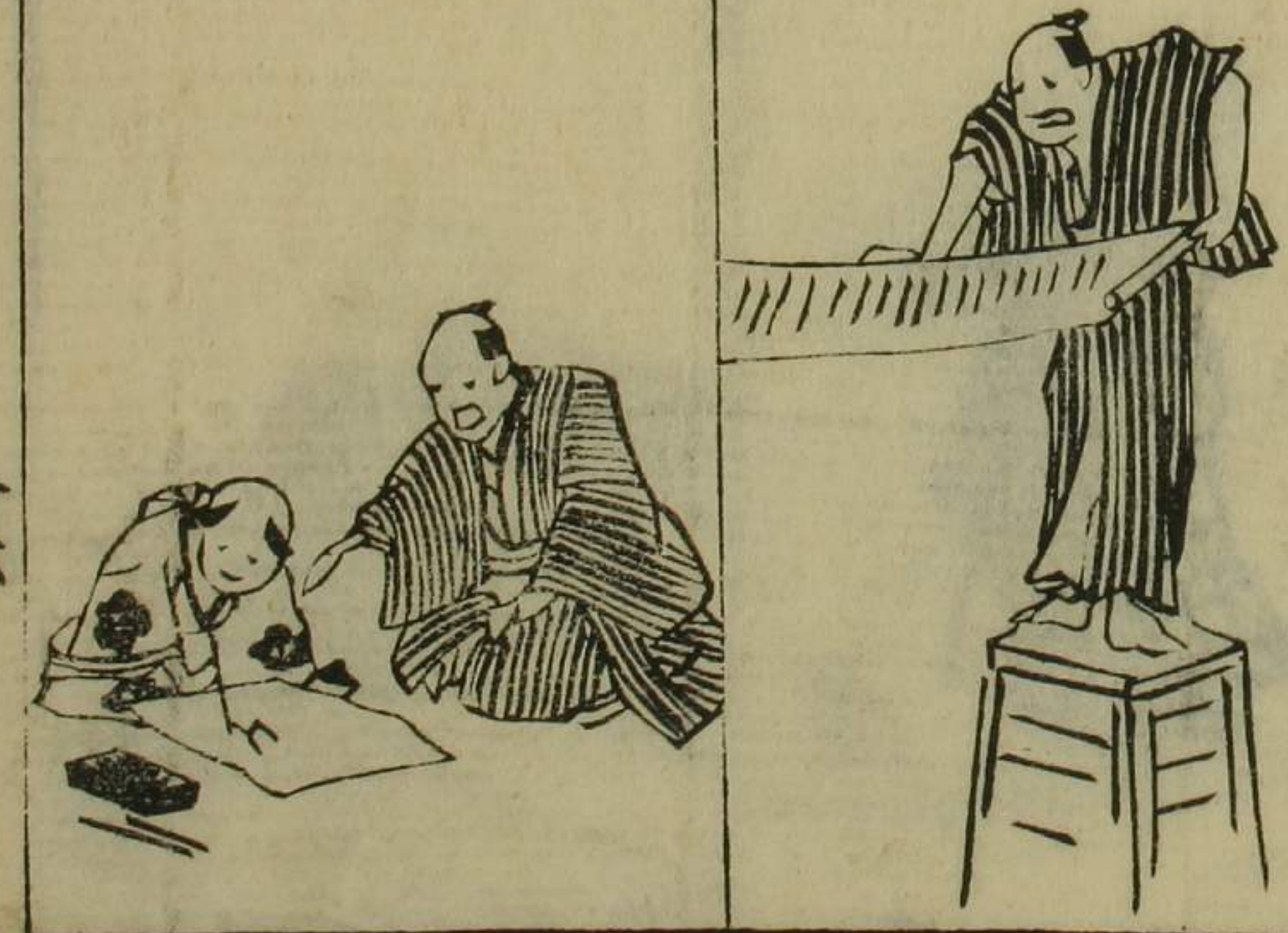
大入舎 玉金

一勇齋國芳画

絵師

子

梅



こゝろをわすれ

十五

兄弟他人の始末

東西多森の

よどい

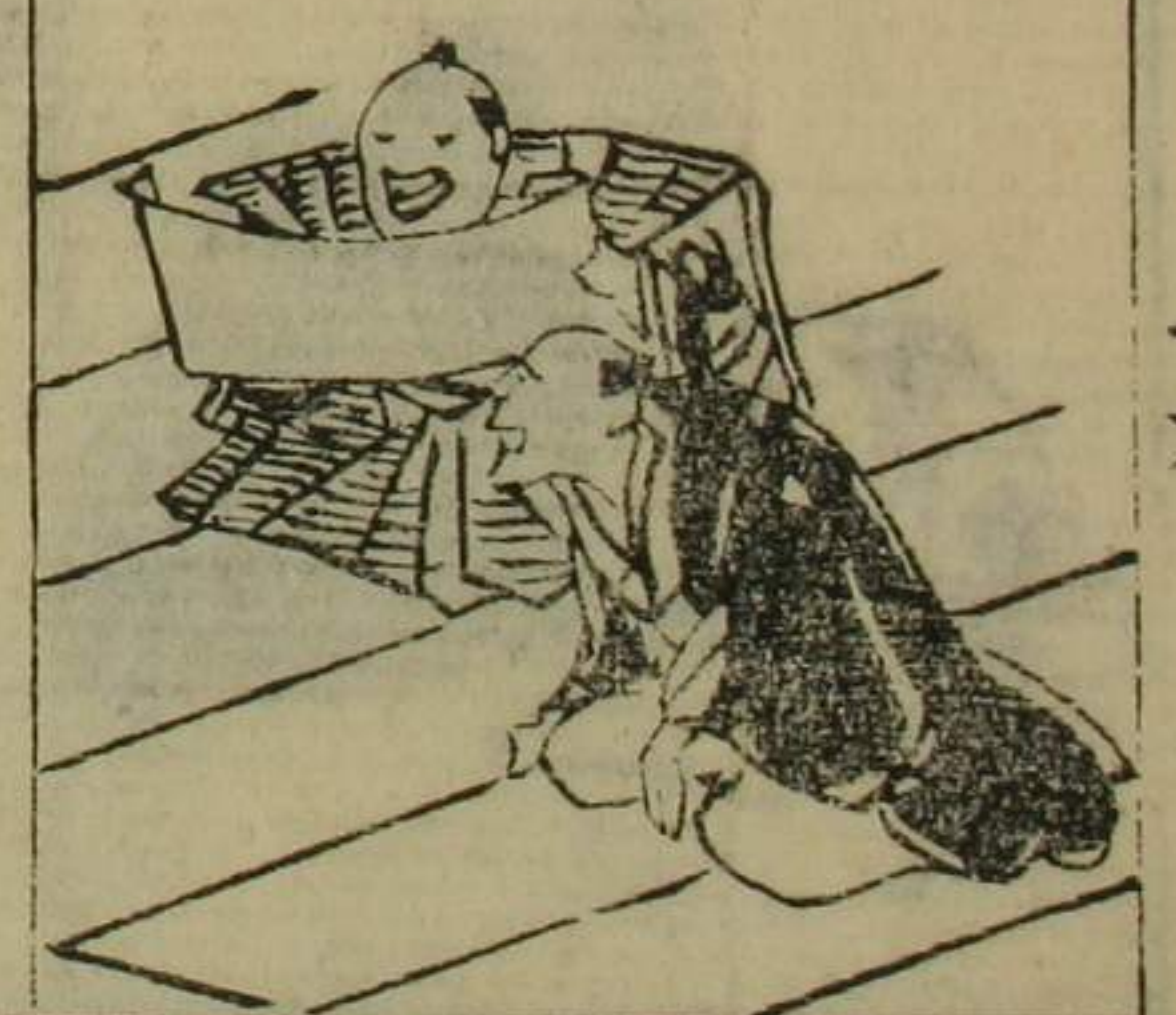
よどい

信田の森結うそ暮のそ

島田の中法

うそに妙のよ

意麻



勘定合て銭さうび

船次碎う

赤ざき

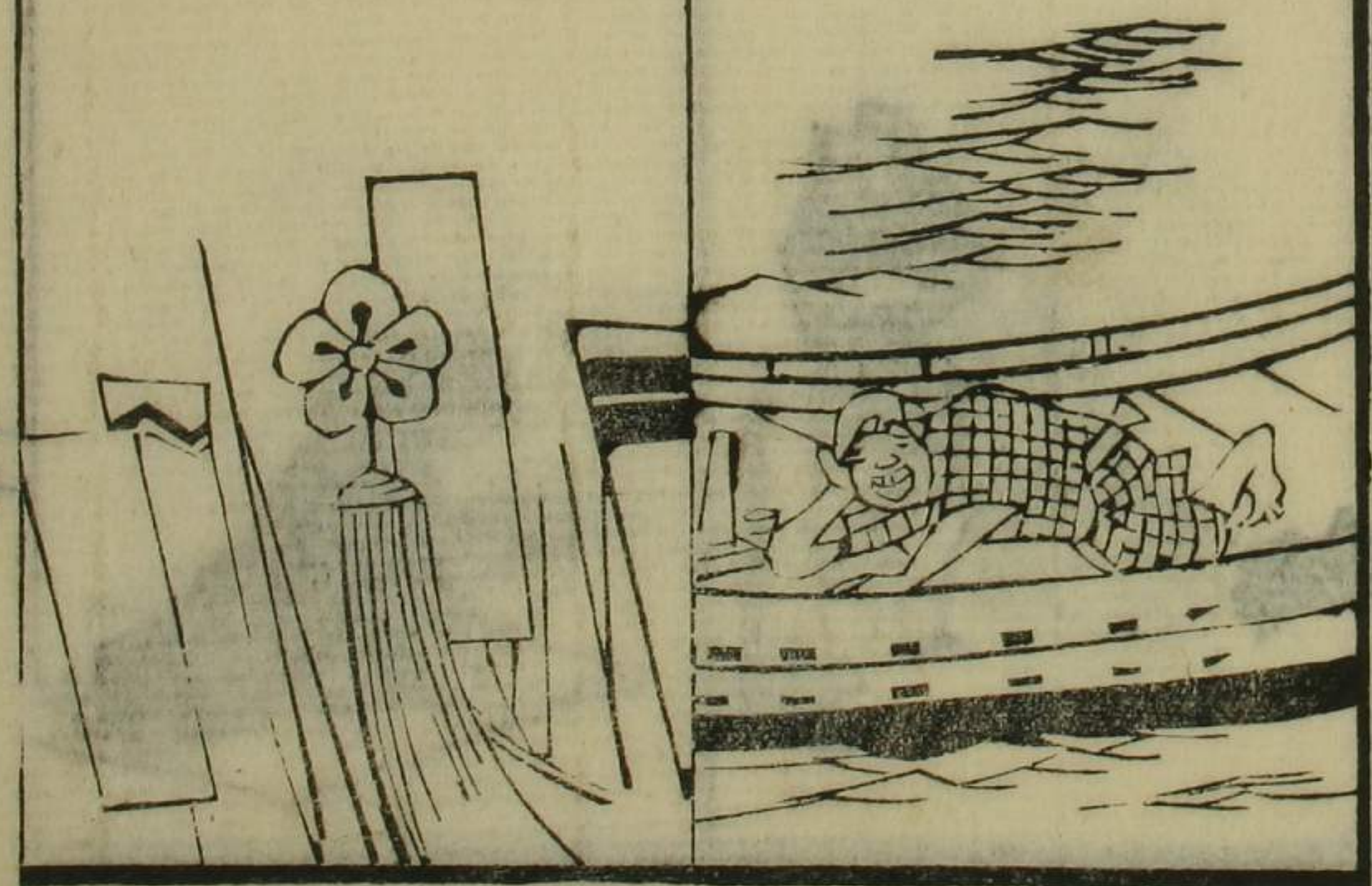
交末

地獄の沙汰も金次第

智略の織田も

攻一たん

根さし真



熊谷の物がたり

花あはれ

物あはれ

梅素

馬ふくをさぶらふこお

佳味くわが

大根をさぶらふ

魚



丸い鶏卵も切やを四角

花いざねも

縁やいそ角

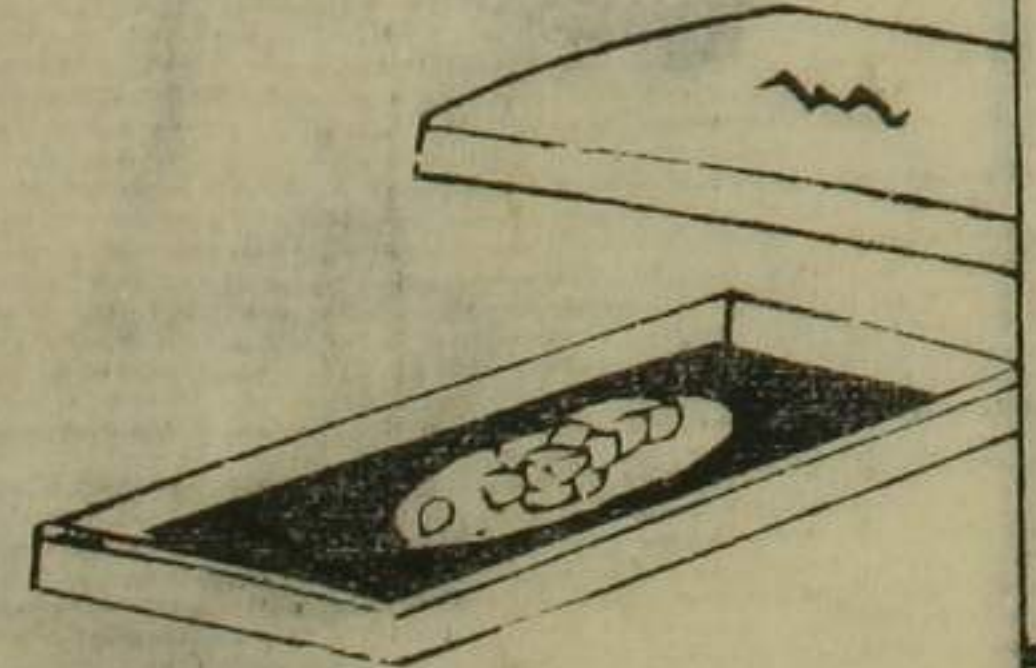
今幾

そうやの志んろく

多料

金毎垢

芳晴



十五夜お月さるるを刻ル

后具屋お好様

おんをさめる

お仙子

朝鮮人來朝

浄心寺

かんちやう

梅素



沈香も薫た尻もひらび

ぎんあるさるお

手もきくじ

出揚



鴉小走んおの孝あり

懐り田浦の

孝あり

玄魚



下地^{しもぢ}を^まは^りは^りの^まは^りは^り

い^さは^りの^まは^り

舞^{こい}の^まは^り

真^ま子^こ 京^{きやう}路^ろ



時^{とき}得^える^まは^りの^まは^り

法^ほ筈^{はつ}用^{よう}で

虫^{むし}や^まの^まは^り

假^か名^な 芳^{ほう}久^{きう}



纏^{まと}も^ちに^まは^りの^まは^り

砂^さ糖^{とう}餅^{もち}よ

さ^うら^いの^まは^り

小^こ三^{さん}笑^{わら}



天^{あま}下^かま^はり^のま^はり

ら^んま^ま

あ^まの^まは^り

二^にを^を



